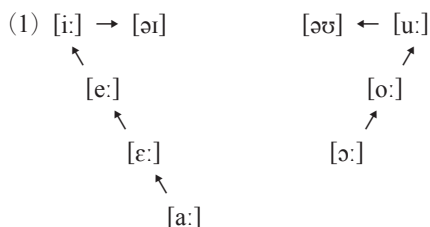


42 大母音推移

—つづり字と発音の不一致の主要因—

英語学習者の多くは、つづり字 (spelling) が発音 (pronunciation) と一致しないことに頭を悩ませた経験があるだろう。「foodはなぜ『フォード』ではなく『フード』と発音されるのか」、「nightにはなぜ発音されないghという文字が入っているのか」など、例を挙げようと思ったら、枚挙にいとまがない。つづり字と発音の不一致が英語に生じた要因は様々あるが、主要因の1つとして挙げられるのが「大母音推移」(Great Vowel Shift) である。

大母音推移とは、1400年頃(中英語の後期にあたる)から1700年頃にかけて起こった長母音 (long vowel) における大規模な音変化のことである。この期間にかけて、強勢のある長母音がそれぞれ元の舌の位置よりも一段か二段高い位置で発音されるようになった。この大母音推移は、一般に、次の(1)のような図で説明されることが多い。



(1)の図では、左側が口腔内の前方を、右側が後方を示している。例えば、[a:]を発音する時には、舌の前部が低い位置にあるが、[ɛ:], [e:], [i:]と順番に発音していくと、舌の前部の位置が徐々に高くなっていく。同様に、[ɔ:]を発音する時には、舌の後部が低い位置にあるが、[o:], [u:]と順番に発音していくと、舌の後部の位置が徐々に上がっていく。大母音推移と呼ばれる変化では、(1)の図で示したように、強勢のある長母音が一段か二段高い位置で発音されるようになった。次の(2)を参照されたい。

(2) 中英語 → 大母音推移 → 現代英語

fet [ɛ:] → [i:] → feet [i:]

(同様の例：see, deep, feet, teeth, feel など)

sea [ɛ:] → [e:] > [i:] → sea [i:] ※大母音推移で二段上昇

(同様の例：eat, clean, mean, heat, cheap など)

fod(e) [ɔ:] → [u:] → food [u:]

(同様の例：tooth, moon, noon, school, goose など)

ただし、[i:] と [u:] に関しては、舌がすでに高い位置にあり、それ以上高くすることができないため、それぞれ二重母音化して、[i:]→[əɪ]（後に [aɪ] へと変化）、[u:]→[əʊ]（後に [aʊ] へと変化）と発音されるようになった。次の(3)にその具体例を示す。

(3) 中英語 → 大母音推移 → 現代英語

time [i:] → [əɪ] → time [aɪ]

(同様の例：like, life, five, nice, wise など)

hous(e) [u:] → [əʊ] → house [aʊ]

(同様の例：mouse, mouth, now, how, cow など)

また、長母音の音変化は大母音推移の後にも起こっており、[ɛ:] や [e:] が二重母音化して [eɪ] に変化したり、[ɔ:] が二重母音化して [oʊ] に変化したりした。次の(4)がその具体例である。

(4) 中英語 → 大母音推移 → 現代英語

name [a:] → [ɛ:] → name [eɪ]

(同様の例：take, make, hate, shame, late など)

gret [ɛ:] → [e:] → great [eɪ]

(同様の例：break, steak など)

ston(e) [ɔ:] → [o:] → stone [oʊ]

(同様の例：home, whole, goat, boat, go など)

冒頭のnightに関して説明すると、この語は中英語では[nɪçt]と発音されていたが、[ç]の音は次第に発音されなくなり、その空いた部分を補う形で母音が[i:]と長音化した。そして、大母音推移により、現代英語では[aɪ]と発音されるようになったが、つづり字のghはそのまま残ったのである。

大母音推移が起こった原因に関しては不明な点が多いが、寺澤(2008)と安藤(2002)は2つの有力な説を紹介している。(1)の図でいう低い母音([a:]と[ɔ:])から変化が始まり、すぐ上にある母音を一段ずつ押し上げていったとする説と、先ず、高い母音([i:]と[u:])が二重母音化し、そこに生じたすき間に下の母音が引き上げられていったとする説である。寺澤(2008)によると、この2つの説の折衷案を提案している学者もいれば、少数派ではあるものの、そもそも連鎖的な現象ではなく、大母音推移自体が存在しなかったと考える学者もいる。

(鵜崎 敏彦)